



やまゆり



学校教育目標 **大地に根をはり 共に伸びよう 天までとどけ**

HP アドレス www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamiyabe/

☆欠席連絡は、連絡帳かマチコミメール（朝 8:00 まで）、それ以降は電話をお願いします ☆朝学校に着くのは、8:10~8:20 までの間です
☆登下校は決められた通学路以外使いません ☆帰宅後の外出は5時までです ☆放課後の学校への電話連絡は 18時までをお願いします



箱根駅伝

副校長 田宮真樹

早いもので、令和5年になって1か月が過ぎようとしています。

皆様は年末年始、どのようにお過ごしだったでしょうか。私にとってお正月といえば箱根駅伝。生中継を見つつ、テレビのデータ放送を使って個人順位をチェックし、「テレビには映っていないけど、〇〇大学の□□選手が区間賞を取りそうだ!」などと一人熱く応援しています。今大会は、駒澤大学の2年ぶり8回目の総合優勝で幕を閉じました。

思えば小学校入学前、当時大磯に住んでいた祖父に連れられ、箱根駅伝を観に行ったことがきっかけで、興味をもつようになりました。当時はまだ沿道で応援する人も少なく、選手が走っていく様子を簡単に観られたように思います。それが今では、沿道でおよそ100万人が応援し、テレビ視聴率も20~30%ある国民的な行事になりました。

平成10年代、圧倒的に強かったのが駒澤大学で、率いていたのは今年度で勇退する大八木監督でした。しかし、その後は毎年優勝候補に挙げられるものの、他大学の台頭もあって優勝から遠ざかり、シード権を逃す年もありました。

毎年のように優勝していた頃の大八木監督は、いわば一方通行型の指導で、学生たちは、指導されたことを忠実に練習し、厳しい練習を課すと「やってやる!」と反発心をもって取り組んでいたそうです。ところが次第に、厳しい練習を課しても学生たちの反応が無くなり、本当にわかっているのか大八木監督は疑問に思うようになりました。平成30年にはシード権を逃したこともあり、何種類か練習方法を提示し、どれがよいか選手に選ばせる、対話型の指導にシフトチェンジしました。その時代の学生に合わせて指導法を変化させていったのです。それが、ここ数年の駒澤大学の躍進につながったと言われています。

私は常々、どんな指導も教える対象の実態を正確に見極めることが、第一歩だと考えています。小学校でも、子どもによって、クラスによって、学年によって、学校によって実態はそれぞれであり、全く同じということはありません。何が得意で苦手なのか、どんな経緯をたどって成長してきたのか、家庭や地域の様子は?等々、とても幅広く把握する必要があります。やまゆり12月号で校長から紹介があったように、全国学力状況調査の分析も大切な作業です。こうした実態把握を経て、どんな指導が最適なのか工夫が始まります。それこそが指導力なのだと思います。

今回、箱根駅伝で優勝した大八木監督の指導法を知り、改めて子どもの実態把握の大切さを学びました。今後は総監督となり、卒業する田澤選手とともに世界を目指すそうです。還暦を過ぎ、なお情熱をもって成長し続けようとする姿勢も見習いたいです。

来年の箱根駅伝は記念すべき第100回大会で、参加資格が関東の大学から全国の大学に広がります。どんなドラマが待っているのか、今から楽しみです。同時に、強いチームはどんな指導をしているのかを探るのもまた、楽しみにしています。